

令和元年度 校内研究全体計画

1 研究主題

主体的に学び 伝え合う子どもの育成
～学ぶ楽しさやよさを実感できる国語科授業づくり～

2 主題設定の理由

(1) 子どもの実態から (○：成果 ●：課題)

①学力テストの結果について

- 昨年度の全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の全国比は、国語 A…8.3、国語 B…7.3、算数 A…9.5、算数 B…7.5、理科…9.7 で、全教科において全国平均を大きく上回っている。
- 昨年度の標準学力検査においては、算数の偏差値の教科平均が 53.8、国語が 53.1 である。全国平均を上回っているものの、前年度の結果からは約 2 ポイントずつ下がっている。また、学年によって学習の習熟度に大きな差が見られる。

②児童アンケートの結果について

- 学習内容を理解している児童が 88%、友達や先生の話をつかろうとして聞いている児童が 92%、読書が好きな児童が 90% と多い。
- 国語が好きな児童が 64%、自分の考えを進んで話している児童が 61%、自分の考えを聞く人に分かってもらえるように工夫して話している児童が 60% と少ない。

③教師から見た児童の姿について

- 課題に対して意欲的に取り組み、一生懸命に話し合いをする力がある。
- 自分の考えがもてると意欲的に活動できる。
- 対話力や相手の意見を受けて返す力がまだまだ足りない。
- 語彙力や読解力、表現力が乏しい。
- 全体の前で説明をしたり、自分の考えや感想を伝えたりすることに苦手意識をもっている児童が多く、自信をもって交流に参加できない。

(2) 学習指導要領のねらいから

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が示され、国語科の目標では以下のように「伝え合う力を高め、思考力・判断力・想像力を養う」ことが示されている。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

①は「知識及び技能」に関する目標である。授業で学ぶ「知識及び技能」を日常生活の様々な場面で主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」として習得するためにも、「学ぶ楽しさやよさを実感できる授業」を行う必要がある。

②の「伝え合う力を高め」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである。その力を高めるためには、形式的に意見交換を行うのではなく、意見交流に対するよさや価値を一人ひとりが実感、理解する必要がある。

③の「言葉がもつよさ」とは、言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出した

りすること、言葉から様々なことを感じたり感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深めたりすることなどがある。これらのよさを実感することで主体的に学び、表現しようとする子どもが増えていくだろう。

(3) 学校教育目標および学校経営の重点から

本校では「じょうぶな子ども、思いやりのある子ども、よく考える子ども、がんばりぬく子ども」という学校教育目標のもと、体・徳・知の調和のとれた、豊かな人間性とたくましく生きる力を持ち、確かな学力を身に付けた子どもの育成を目指している。

また、本年度の学校経営の「5 経営の重点」に「主体的に学び、伝え合う力を育む授業づくり」があり、「学ぶ意欲を高める課題設定と対話的・協働的で深い学びのある授業づくり」「めあてとまとめを意識したリズムのある授業の日常化」「表現活動と読書活動の充実」などが挙げられている。主体的に学ぶ意欲を高める授業や対話的・協働的に考えを伝え合う授業を創造していくことは、今年度も重点的に実践していかなければならない事項である。そして、それらの授業を積み重ねていく中で、深い学びやリズムのある授業、表現活動の充実・活性化につながっていくと考える。

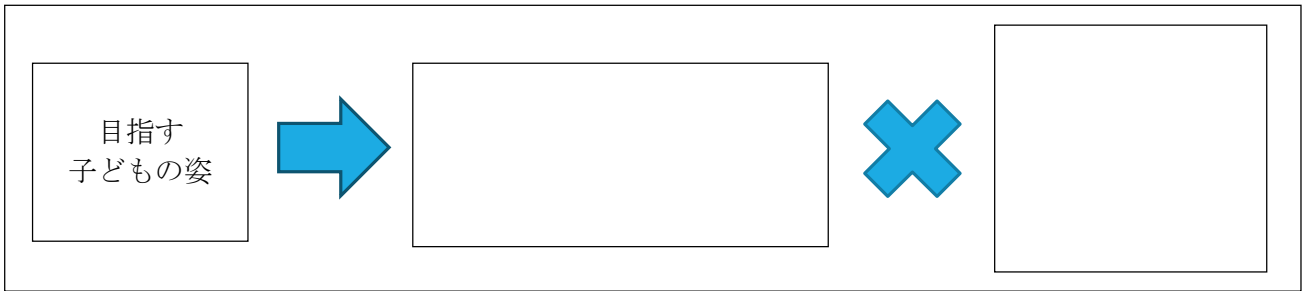
(1)～(3)から、国語科の研究を通して、主体的・対話的で深い学びを目指した単元構成や課題提示、言語活動、交流活動、振り返りなどの工夫を行いながら「学ぶ楽しさやよさを実感できる」授業づくりを進め、研究主題である「主体的に学び、伝え合う子ども」の育成に迫っていくこととした。

また、昨年度は授業研究の内容が算数科から国語科に変わった初年度ということもあり、模索しながら研究を進める一年となった。「単元を貫く問い」を核に、「読むこと」に関する単元で授業研究を行ってきたが、児童の実態や本校の課題を考えると、視野を広げて研究を進める必要がある。そこで、「主体的に学ぶ子ども」「伝え合う子ども」の育成を目標に、「学びの楽しさやよさを実感できる授業づくり」を目指して各々が課題設定を行い、様々なことにチャレンジしてみる一年と位置付けて研究に取り組んでいく。

3 目指す子どもの姿

	主体的に学び、伝え合う子どもの姿
低学年	主体的な学び：文字や言葉、教材に 興味をもち 、学習に参加する姿。 学んだことを活かし、自分の考えを表現しようとする姿。 対話的な学び： 自分の考えをもち 、それを表現する姿。 互いの話に 関心をもち 、相手の発言を受けて 話をつなぐ 姿。 深い学び：対話によってももの見方・考え方を もつ 姿。
中学年	主体的な学び： 自ら進んで 課題解決に取り組む姿。 学んだことを活かし、 相手や目的を意識して 自分の考えを表現しようとする姿。 対話的な学び：自分の考えを 自分の言葉で 表現する姿。 互いの意見の 共通点や相違点に着目して 交流する姿。 深い学び：対話によってももの見方・考え方を まとめる 姿。
高学年	主体的な学び：学習課題を 自分事として捉える 姿。 学んだことを活かし、 目的や意図に応じて 自分の考えを表現しようとする姿。 対話的な学び： 相手意識をもち 、自分の考えを 相手に伝えるように 表現する姿。 互いの 立場や意図を明確に しながら 計画的に 話し合う姿。 深い学び：対話によってももの見方・考え方を 広げ、深める 姿。

4 主題に迫るための授業づくりの手立て



※目指す子どもの姿を基に、「目指す学び」と「それを実現させるための工夫」を選択する。

※2～3個の組み合わせを手立てに設定して授業づくりを行う。

※別の学びを目指した組み合わせ（A-1とB-4など）でも、同じ学びを目指した組み合わせ（A-1とA-3）でもよい。

5 研究の方法

(1) 国語科の授業研究を通じた取組

- 研究主題の達成に向けて、一人一回の授業研究を行いながら成果や課題等を明らかにする。
- 手立てを設定して授業研究を行う。手立ての有効性を検証し成果や課題を明らかにする。

(2) 日常の授業や教材研究を通じた取組

- 研究主題達成に必要な取組を、国語科を中心に他教科や諸活動で日常的に実践する。
- よりよい指導法や学習形態のあり方について研修・実践を行う。
- 特別支援に配慮した授業についての研修・実践を進める。

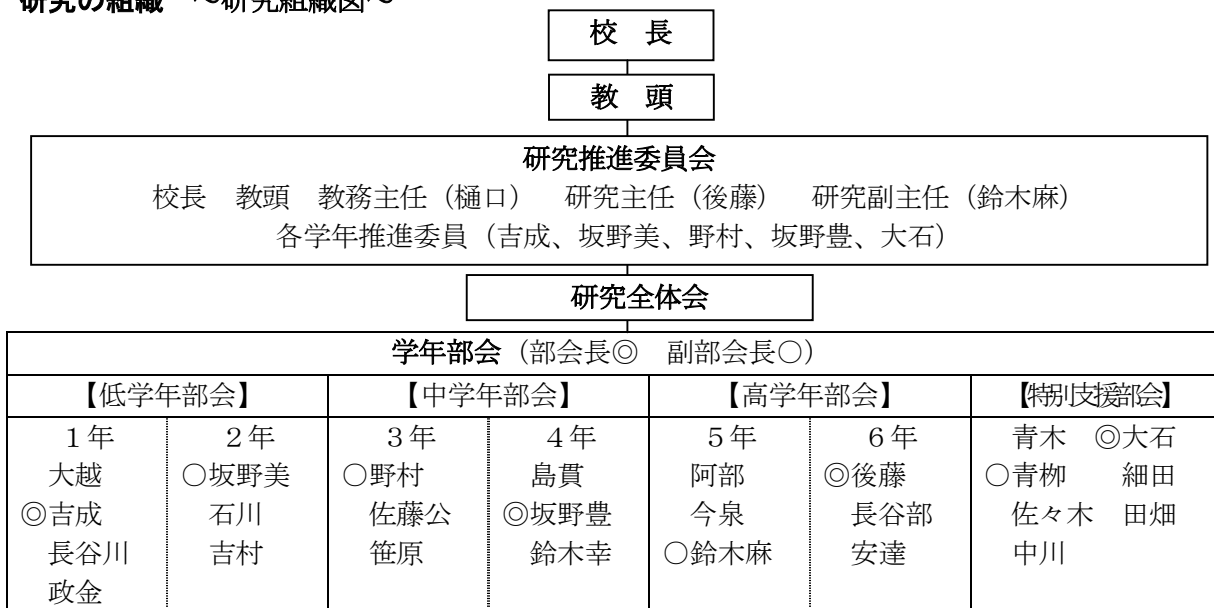
(3) 推進委員会・学年部会等を通じた取組

- 各組織の役割に応じて、研究主題達成に向けて活動を進める。

(4) 研究紀要の作成

- 1年間の研究の実践や、成果と課題をまとめる。

6 研究の組織 ～研究組織図～



※校長・教頭・樋口・佐藤俊は、適宜各部会に参加する。

7 研究計画

(1) 全体計画

月	日	曜日	研究会	内容
4	5	金	研究推進委員会	今年度の研究の方針の提案
5	7	火	校内研究全体会	校内研究全体計画案の提案
6	7	金	第1回授業研究会	国語科 6年1組
	11	火	研究推進委員会	第1回授業研究会を受けて
	17	月	第2回授業研究会 (計画訪問)	国語科 4年2組 道徳 2年1組
	18	火	研究推進委員会	第2回授業研究会を受けて
8	26	月	校内研究全体会	研修会
10	18	金	第3回授業研究会	国語科 2年2組 5年3組
	24	木	研究推進委員会	第3回授業研究会を受けて
11	22	金	第4回授業研究会	国語科 1年2組 3年1組
	26	火	研究推進委員会	第4回授業研究会を受けて
2	18	火	研究推進委員会	今年度の成果と課題 来年度の研究の方向性

①全校研（大研）について

- 1日2授業行い、2校時目と3校時目を原則とする。該当学年で下の学年が2校時目とする。
- 授業を教職員全員で参観し、全体もしくはワークショップ型で事後研究会を行う。

②学年部研（小研）について

- 全校研授業者以外の全学級担任が行い、単元や日程等は学年及び授業者一任とする。
- 事前研究会は必要に応じて、学年もしくは学年部を中心に実施する。
- 授業3日前まで指導案を全職員に配付する。
- 学年部員全員および参観希望者が参観し、学年部を中心に事後研究会を行う。

(2) 外部研修計画

- 各学年1名程度、外部の公開研究会等の研修会に参加し、本校の研究に生かしていく。
- できるだけ国語科や本校の研究に関連ある内容の研修を選択する。